

## 編集後記

頸部脊椎症は現在整形外科医が扱っている疾患のうちでもっともポピュラーなものの一つであり、高齢化社会を迎えてますます増加の傾向を示している。最近では神経内科医をはじめとして、他の臨床科を受診するものもあり、また症状として頻度の高い痛みや知覚異常のためにペインクリニックなども訪れる患者も少なくない。その大部分が保存的治療により治療されるが、最近の手術療法の進歩から、より積極的アプローチも盛んである。

そのようなわけで本症を特集に採り上げたが興味深い読物になった。疫学と総論に関しての田岡論文は発生頻度、性別、年齢、臨床像、X線所見、そして予後などについて1023名の分析結果を報告し、城戸研二氏らはOPLLとの関連にも言及し、鑑別診断(ALSなど)の)を述べた。保存的にはいろいろな方法があるものの、よりscientificな方法が必要との中村論文の警鐘もあるほどで一考に値するものであった。手術的には星野雄一氏らが前方よりの固定、あるいは除圧や、側方からのアプローチ、あるいは脊椎管の拡大術などについて述べた。かなり微妙で精緻な手技による手術法とはい

え、まだまだ安全性がより確立されるべきであるとの多少謙遜ともとれる文章があった。

研究と報告にも二井英二氏らの研究のように独特の着眼点を持ったものも見られた。いざり移動児を51例まとめた上に参考となる先人の研究を引用してあるので、まとめた学習に便利であろう。

調査では今田拓氏らの小規模作業所の現況調査というのが興味のある文章であった。たしか図表が多すぎるので多少割愛していただいたと思うが読みごたえのあるものになっている。

講座なども順調で、ことにCTの分野に関してはまだまだ我々も勉強させられるものがある。

症例報告の形でリハビリテーション医学上の症例を議論するのは、かつてはむずかしかったと言われたものである。しかしどうやら何を中心に議論すべきかという点も定着したようであり、原著の研究論文ともども大いにお送りいただきたく編集子一同お待ちしている。

(大井 淑雄)

## 編集顧問

天 児 民 和  
大 島 良 雄  
河 邨 文 一郎  
五 味 重 春  
津 山 直 一  
土 屋 弘 吉

## 編集委員

明 石 謙  
上 田 敏  
緒 方 甫  
大 井 淑 雄  
大 川 嗣 雄  
千 野 直 一  
横 山 巖

## 編集同人

赤 津 隆  
今 田 拓  
今 村 哲 夫  
岩 倉 博 光  
江 口 壽 榮 夫  
小 川 孟  
荻 島 秀 男  
奥 川 幸 子  
加 倉 井 周 一  
小 島 蓉 子  
斉 藤 正 也  
笹 沼 澄 子  
澤 村 誠 志  
高 橋 勇 吉  
高 松 鶴 吉  
武 智 秀 夫  
土 屋 和 夫  
土 肥 豊  
永 井 昌 夫  
中 村 隆 一  
野 島 元 雄  
野 村 歆  
長 谷 川 恒 雄  
初 山 泰 弘  
福 井 圀 彦  
松 村 秋  
三 島 博 信  
矢 谷 令 子  
米 本 恭 三  
渡 辺 英 夫  
(五十音順)

総合リハビリテーション (第17巻 第3号)

1989年3月10日発行(毎月1回10日発行)

1部定価 1,750円(配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 19,920円)  
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 山田・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 637-0005

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1989, Printed in Japan.  
本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。